

2006年から、春は桜花、夏は深緑、秋は紅葉、冬は白雪と、日本の四季の秘湯を 訪ねて、なんと63湯となりました。

東鳴子温泉 旅館大沼

実施日：令和7年1月23日(木)～24日(金)

年末は全国で豪雪の便りが届いていたので、宮城県鳴子は北国だけに雪を心配して出発前に旅館に確認したところ普通の靴でも大丈夫とのこと、重装備でなく出かけることができた。

初日は、8時10分に新百合ヶ丘駅集合、東京駅から新幹線で古川駅に、古川駅から陸羽東線に乗り換え、12時57分に鳴子御殿湯駅に到着した。新幹線では時間があつたので、お酒をたしなんだり、弁当を食べながら道中を楽しんだ。

チェックインは15時でしたが、旅館の好意で早めでも結構ということで、駅から10分ほどで早めに旅館に13時には到着できた。旅館までは鄙びた商店街で雪が残っていて、それなりに都会と違う風情を感じました。



この旅館には二種類の源泉と八つの多彩な源泉かけ流しの風呂があり、本来は二泊三日の「現代湯治」をすすめているだけに、早め到着を生かしてまず一番湯を貸切庭園露天風呂(有料)に、旅館の車で雪道を5分ほど移動。雰囲気、お湯も良くノンビリできたけれど、人気があるので制限の30分のだけしか味わえなかったのは残念至極。戻ってから、時間のある限り多くの内湯に浸かり、



今回は風呂巡りに時間をとられると思い、部屋は湯治用の質素な2人部屋を3室にして、料理は仙台牛がついた豪華な会席膳を選択、仙台の旬の素材を生かした手作り感の食事で感動、量も適当で皆さん珍しく完食。われわれの評価は高い。



翌朝は、4～5時頃から、昨日一番気に入った大浴場「薬師千人風呂」へ、ゆっくり温まってから朝食へ、これまた、温泉水を使用した湯豆腐、鳴子の清流で育てた鳴子米、鳴子でとれた大豆からできた大粒の納豆、地力をいただくという「湯食同泉」そのものであった。

10時に旅館発。2時間に一本というローカル線なので、中途半端であったが、途中仙台駅で途中下車して仙台名物牛タンを食してから帰路に、幸運にも仙台始発の新幹線なので、各自ゆっくりして帰れた。



次回予定

4月22日(火)～23日(水)

場所:新潟県笹倉温泉 龍雲荘

幹事:開原さん

植木(記)

